

県小体研だより

鳥取県小学校体育研究会 令和5年12月発行

第61回 中・四国小学校体育研究大会 ＜参加者の感想 part2＞

研究について

これからの体育のあり方について考える機会をいただき、また、大会主題に沿った授業を見させていただき、大変勉強になりました。副題の「運動の楽しさに浸る」の子どもたちが運動の楽しさに「浸っている」姿について、もう少し話が聞きたかったです。

授業1・討議について （低学年の走・跳の運動遊び）

子どもたちの意欲や、話を聞く態度、伝え合う姿がとても良かったです。場の設定が整っていて、時間ごとの積み上げの工夫もあって、いいなと思いました。中学年・高学年の幅跳びに繋がる運動と捉えるのなら、着地は両足が良いという視点が必要だったのではないのでしょうか。

授業2・討議について （高学年保健）

「わたしたちの保健」を活用し、目標とする学習内容を子どもたちがしっかりと学べていました。子どもへの発問・教材の提示・情報提供など、授業者の先生が子どもの学びの状況に合わせてこだわって準備されていると感じました。

授業2・討議について （中学年器械運動）

「わたしたちの体育」の活用について、参考になりました。1人1台端末の活用も大変参考になりました。動きを見る視点を絞るときも、あの先生がされていたように、画像(コマ)を特定すると、ねらいに迫れるのだなと思いました。子供たちも扱いに慣れていて、止めたりスロー再生したりして指導が行き届いていて、素晴らしかったです。（後略）

分科会について （保健）

大会参加者から良い実践や研究が各県に広がり、よりブラッシュアップして大会にもどってきているなど感じた。大きな研究大会を続ける価値を感じた。県内のみならず、中四国で、研究を引き継ぎ合うことも必要だと思う。



我々の小体研、より広い中・四国小体連という組織や事業を通して、人・授業・実践と出会い、多くの先生方が自身の力を伸ばされることを切に願っています。（文責 県小体研・顧問 長谷川）